

研究全体構造図

本校の教育目標

あかるく かしこく たくましく

【保護者の願い】

- ・ 基本的・基礎的な学力の定着
- ・ 好ましい人間関係を育める環境
- ・ 自分の考えを分かりやすく伝えたり、集中して聞いたりできる力の向上

【子どもの実態】

- ・ 人の気持ちを考えて行動できる児童が多い
- ・ 全体的に学習規律が定着している
- ・ 話すことに対して消極的であり、そのことが話し方や学びの姿勢にも影響している

研究主題

主体的・対話的な学習活動の在り方
—学習過程と指導方法の工夫—

目指す子ども像

- 課題に対して自分の思いや考えをもつことのできる児童
- 自分の思いや考えを言葉で表現することのできる児童
- 表現するために、必要に応じ方法を選択したり活用したりしようとする児童

【研修の柱1】

子どもが思いや考えを効果的に話す力を育む授業づくり

【方策】

1. 話す場面の意図的な設定

話す内容を個人思考で整理し、自分の考えとして他者に伝えていく場の設定をすることで、話す経験につなげる。

2. 少人数での話し合いの設定

ペアもしくはグループでの話し合いを通して、他者と意見を比べて、共通点や相違点に気付くことで自分の考えを深める。

3. よく聞き、内容をおさえる活動

話を聞いて説明の要旨を理解しようとすることを目指す。発達段階に応じてメモ等の手立てを講じてよい。

4. 効果的な教材・教具の活用

話したり聞いたりする際に教材・教具を活用することにより、話すことを効果的に行うことができる。

【研修の柱2】

授業を行ううえで必要な技術の向上を図る実技研修

【方策】

1. i P a d活用の仕方を教職員が習熟する実技研修

- ・ 授業時における i P a dの効果的な活用の仕方の実技指導（G I G A推進委員との連携）

2. 日常の授業での工夫や取組の交流

- ・ 日常的に授業で取り組んでいる内容の交流を通して、教職員同士のスキルアップにつなげる